

2021年1月19日



キリスト教センター 通信 Vol.29

激励メッセージリレー



タイトル 『 なみだのツボ 』

キリスト教センター長 藤倉哲哉

人には「この本を読む、この歌を聞く、この映画を見ると必ず泣く」という「なみだのツボ」があるらしい。そういえば学生時代に読んで恥ずかしいほど泣いた文学作品があったし、いまでも礼拝の後で「また歌いながら号泣していたでしょう!？」と揶揄される「ツボ」の聖歌がいくつかある。

読書や映画は、私たちが体験できないことでも、誰かの体験を通じて自分の経験とすることができる。実際に体験するには制約もあるし、戦争や弾圧・虐待など体験してはならないものも外から客観的な経験として学べるので、教材として採り入れたいものもある。漫画やアニメーションなど表現の方法や媒体もさまざま。

人は抑圧や自由の制限など厳しい環境に長くおかれると、感情を出せなくなる。作品を自分へのメッセージと受けとめ、たまには「心を洗う」ために泣くのもいい。毎日のことでいっぱいになって辛いときは、思い切ってメモリをクリアする。余計なものを手放し、神の前に出たように無防備で謙虚になれるのが「なみだのツボ」だ。苦しい感情を開放して泣くことは、また歩き出すきっかけにもなる。

長い巣籠りで心が疲れたら、読書や映画で涙を流して心を洗いスッキリしてはどうだろう。

キリスト教 一口メモ 「イエス・キリストは笑わなかった？」

多くの弟子を抱え、民衆を悔い改めさせ、奇跡をたくさん行なったイエス・キリスト。しかし実は、とても情に厚い性格でした。弟子の失言に怒り、友の死の場面では涙を流す。聖書にはそんな感情豊かな姿が描かれています。しかし、聖書のどこにも笑った姿は描かれていません。イエス・キリストは笑ったか、笑わなかったか、どちらでしょう。きっとよく笑う人だったのではないのでしょうか。だから敢えて聖書はイエス・キリストの笑いについては触れておらず、笑っている姿は日常茶飯事だったのです。弟子たちと食事を囲み、会話を楽しみ、笑顔が絶えない。そんな素敵な人柄だったのではないのでしょうか

新型コロナウイルスの被害を覚えるお祈り

どうか、皆さんもお時間があるときにお祈りください

神戸国際大学の学生のための祈り

いつくしみ深い神よ、新型コロナウイルスの感染拡大により、困難な日々、孤独な状況、不安の中にあるすべての神戸国際大学の学生のみなさんのために祈ります。

どうか、彼女一人ひとりの心を支え、お守りください。そして私たちに、あなたの知恵と力が与えられ、今できることを考え、神さまの、み心にかなった正しい行動を心がけることができますように。そして、共に心を合わせて、新型コロナウイルスの一日も早い終息を祈り、求め続けることができますようにお導きください。

このお祈りを、主イエスさまの、み名によっておさげいたします。アーメン

病に苦しむ人のための祈り

慈悲の父、慰めのもとである神よ、現在、新型コロナウイルスに感染し、痛みや苦しみ、不安や悲しみの中にある人のために献げる祈りをお聞きください。

どうか病で困難や不安の中にある人を憐れみ、み恵みによってその体と心を強め、病を癒してください。また、医師と看護する者とを助け導き、その働きを支えてください。

そして、何もできずに不安と悲しみの中で苦しむご家族やご友人、また、私たちの心も神さま、あなたが愛によってお救いください。

主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン

離れている大切な人を覚える祈り

愛なる神さま、あなたは、み手を伸べていつも私たちをお守りくださいます。どうか、遠く離れて暮らす家族や友人を様々な困難な状況からお守りください。

そしてこの不安定な世界において、必要な糧が与えられますように。心と体が守られ、健やかに日々を過ごすことができますように、どうかあなたがお支えください。

また、不安の中で医療に従事する人々のために祈ります。どうか一人ひとりの働きが祝福され、感染者の回復を助け、支える力をお与えください。そして彼らが感染から守られ、新型コロナウイルスの終息に向かうことができますように。

この小さなお祈りをイエスさまによってお願いいたします。アーメン

神戸国際大学
キリスト教センターの
HPリンクはこちらまで

